

施策番号	2304		
施策名	環境に配慮され、だれもが使いやすい建築物の誘導		
概要	建築物の総合的な環境性能を評価するシステムに京都独自の基準を組み込んだ制度（CASBEE京都）の活用や、建築物のバリアフリーに関する制度の見直しを行うことなどにより、環境に配慮され、だれもが使いやすい建築物への誘導を図る。		
担当局・部室	都市計画局・建築指導部	共管局・部室	
上位政策	23 建築物		
施策に係る主な分野別計画等			

施策の評価

1 客観指標評価

指標名		平成 29年度	平成 30年度	令和元年度評価					
				前回値	最新値	目標値	達成度	評価	指標の ウエイト
1	CASBEE京都(※)の届出件数(件)	a	a	91	89	103	86.4%	a	1.00
2	バリアフリー優良建築物の件数(件)	a	a	595	538	500	107.6%	a	1.00
3	-	-	-	-	-	-	-	-	
4	-	-	-	-	-	-	-	-	
5	-	-	-	-	-	-	-	-	
6	-	-	-	-	-	-	-	-	
		a	a	客観指標総合評価				a	

2 市民生活実感評価 *この評価は、毎年5月頃に実施している京都市市民生活実感調査のアンケート結果を基にしています。

設問		平成 29年度	平成 30年度	令和元年度回答							
				そう思う	どちらかと言 うとそう思う	どちらとも 言えない	どちらかと言 うとそう 思わない	そう思わ ない	有効回答 者数	評価	
1	バリアフリー化された建物が増えている。	b	b	79	265	248	63	21	676	b	
				11. 7%	39. 2%	36. 7%	9. 3%	3. 1%			
2	-	-	-							-	
3	-	-	-							-	
4	-	-	-							-	
5	-	-	-							-	
		b	b	市民生活実感調査総合評価							b

3 総合評価(客観指標総合評価＋市民生活実感調査総合評価)

A	施策の目的が十分に達成されている						
	重み付け	☒ 客観指標	a	☐ 市民の実感	b		
(重み付けの理由) 環境配慮建築物やバリアフリー化した建築物は一見しただけでは判断しにくく、市民の実感に反映される要素が薄いことから、客観指標評価を重視する。						平成30年度	A
(原因分析) 客観指標総合評価 ☒ b評価以上であり、施策の効果が客観指標に表れている。 ☐ c評価以下であり、次の原因が考えられる。							
(原因分析) 市民生活実感調査総合評価 ☒ b評価以上であり、施策の効果が市民の実感に表れている。 ☐ c評価以下であり、次の原因が考えられる。						平成29年度	A

今後の方向性の検討

<この施策を構成する事務事業>

	事業名	事業費の状況(千円)		令和元年度事務事業 評価結果における 目標達成度評価	担当局
		平成30年度 決算額	令和元年度 予算額		
1	建築協定支援事業	10,942	15,176	普通	都市計画局
2	環境配慮建築物の普及啓発	17,649	17,668	悪い	都市計画局
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					

* 予算額には人件費及び施設管理に係る経費を含みます。

<今後の方向性>

・CASBEE京都とバリアフリー整備の考え方や必要性が市民に理解され、社会に定着するよう、「CASBEE京都高評価表示プレート」や「みやこユニバーサルデザイン優良建築物顕彰制度」に基づく適合ステッカー等を交付するとともに、パンフレット、ホームページ等を通じて普及啓発を図る。
 ・京都市建築物等のバリアフリーの促進に関する条例に基づき、事前協議や完了検査が適正に行われるよう、条例の普及啓発を図る。

施策名	2304	環境に配慮され、だれもが使いやすい建築物の誘導					
指標名	CASBEE京都（※）の届出件数（件）						
担当課	建築審査課		連絡先	2 2 2－3 6 1 6			
1 指標の説明							
(※) 京都らしい環境配慮建築物を適切に評価・誘導するための京都独自のシステムとして新たに定めた基準（CASBEE京都）の届出件数							
2 指標の意味			3 算出方法・出典等				
CASBEE京都は、建築物の環境への配慮の程度を評価する仕組みであり、建築主の環境への意識の現れを示す指標			算出方法：京都市地球温暖化対策条例に基づき、当該年度に提出された建築物排出量削減計画の件数 出典：事業担当課調べ				
4 数値							
	前回数値 平成29年度	最新数値 平成30年度	推移	目標値			
				数値	根拠	達成度	
数値	91	89	2件減	103	令和2年度目標値を達成するために年度ごとに割り戻したもの	86.4%	
	全国順位	中長期目標					
		数値	目標年次	達成度	根拠		
数値		1,000件	令和2年度	71.9%	適用義務の将来的な拡大と任意提出の見込数の合計をこれまでの確認申請の傾向から推定		
5 評価基準			6 基準説明		7 評価結果		
最新数値の目標値に対する達成度が a：80%以上 b：60%以上80%未満 c：40%以上60%未満 d：20%以上40%未満 e：20%未満			当該指標については、景気動向等による建築物の着工件数の影響が大きいため、80%以上をa、以下20%刻みで基準を設定した。		平成29	平成30	令和元
					a	a	a

指標名	バリアフリー優良建築物の件数（件）						
担当課	建築審査課		連絡先	2 2 2－3 6 1 6			
1 指標の説明							
バリアフリー化された建築物（施設）の件数							
2 指標の意味			3 算出方法・出典等				
「ひとにやさしいまち」に向けた進み具合を示す指標			算出方法：京都市建築物等のバリアフリーの促進に関する条例に基づく検査済証交付件数 出典：事業担当課調べ				
4 数値							
	前回数値 平成29年度	最新数値 平成30年度	推移	目標値			
				数値	根拠	達成度	
数値	595	538	57件減	500	過去の建築確認申請の動向等から、条例対象となる建築物の件数を推計	107.6%	
	全国順位	中長期目標					
		数値	目標年次	達成度	根拠		
数値		500	令和2年度	107.6%	過去の建築確認申請の動向等から、条例対象となる建築物の件数を推計		
5 評価基準			6 基準説明		7 評価結果		
最新数値の目標値に対する達成度が a：90%以上 b：80%以上90%未満 c：70%以上80%未満 d：60%以上70%未満 e：60%未満			これまでのバリアフリー条例に基づく検査済証交付件数の推移を基に、評価基準を設定。		平成29	平成30	令和元
					a	a	a